

**平成29年度 第1回
紀の川市総合教育会議会議録（要旨）**

- 1 開催日時 平成30年2月21日（水）午後3時26分～
- 2 会 場 紀の川市役所 4階 402中会議室
- 3 出席者 中村慎司・貴志康弘・森岡一郎・面平哲也・中西啓子・長谷弘司
- 4 欠席者
- 5 出席職員 市長公室長 西川直宏・企画部長 森本浩行・総務部長 金岡哲弘・教育部長 稲垣幸治・教育審議監 寺本達也・教育総務課長 藤井丈士・学校教育課長 谷口永司・生涯学習課長 上中和利・生涯スポーツ課長 松井孝作・主任指導主事 榎戸多恵・教育監 妻鹿慎郎・教育総務課主幹 長田和美・教育総務課係長 神田友紀
- 6 傍聴者 なし
- 7 協議事項 （1）第2次紀の川市教育大綱の策定について
（2）英語教育について
（3）今後の学校運営等について
- 8 議事の要旨
- 開会
 - 市長あいさつ
 - 協議事項

（1）第2次紀の川市教育大綱の策定について

教育総務課長

【資料に基づき事務局から大綱策定の目的、大綱の期間等、骨子(案)について説明】

市長

ただ今、教育総務課長から説明のあった「第2次紀の川市教育大綱」の策定について、委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。

委員

意見なし

市長

意見がないようですので、次回の総合教育会議に大綱(案)を提出します。

（2）英語教育について

学校教育課長

新学習指導要領において小学校3・4年生に外国語活動、5・6年生に外国語が教科として導入され、平成32年度から全面実施となります。

紀の川市立の小中学校における英語教育を実施させるために、準備しなければな

らない環境整備について、皆様からご意見をいただきたいと思います。

主任指導主事

【文科省から示された外国語教育の抜本的強化のイメージ図について説明】

市長

委員の皆さんからのご意見はありませんか。

教える先生の指導をしてもらわなければ、子どもに年間何時間教えるということに課題が残っているということで、今後どうしていくかということとは言えないのですか。

教育長

31年度から紀の川市では、指導要領どおりに授業をしていくということで、今年度から小学校の先生が中学校の先生の授業を見に行く、中学校の先生が小学校の授業を見に行くという小中学校の交流も地域によって始めています。

市教育委員会としても、先生方の指導を特に大事と考えておりますので、30年度から英語の指導主事を1名置いていただくということになっています。

各小中学校で取り組む先生方の指導にいけるように市教委に配置し、指導主事と相談をしながら対策を考えていこうと思います。

市長

何かご意見ございませんか。

教育委員さん方で色々と検討してくれているのですね。

教育長

英語教育の充実ということで、「英語教育のまち」と言われるくらいの旗をあげて取り組んでいきたいと思います。

市長

どのように取り組んでいきますか。

教育長

委員さんから良いご意見がありましたら。

委員

小学校の教諭の中にも英語の免許を持っていて小学校へ勤務しているという者も何名かいると思います。英語が堪能で得意な人もおりますし、自分で英会話教室へ行っているという人もいます。そんな職員を各校へうまく分散すれば、その学校の核になる指導者ができるのではないかと。その中で一番課題なのが、発音。単語は知っていても、発音がカタカナ読みみたいな発音をしている人もいるし、ネイティブな発音ができるような人もいるようで、そのあたりが一番大きな課題だと思います。

スマートフォンや英語辞書でもボタンを押せばネイティブな発音が出てくるので、電子辞書のようなものを有効に活用してみたら教室で役立てるのではないかと思います。

方法は色々あると思いますので、みんなで検討して各学校で取組を進めていけたらいいのでは。

市長

学校で習うだけでは会話（発音）が通じない。外国の人を紀の川市に来てもらって、各学校を回っていただくという方法を考えてみてはどうか。

委員

我々が外国人を目の前にしたら、喋るのにとても勇気がいります。子供たちは、十数年前から英語活動という形でALTと遊んだり、ゲームをする中で、そういう恐怖心がだんだんなくなっています。

修学旅行に行って外国人を見ても「Hello! Where do you come from?」と言って遊んでいる子供もいます。ですから、この英語教育を充実することによって、とても良い効果が表れてくるのではないかと思います。英語に親しむことで、外国人との交流が深まるのではないかと。

教育長

今、ALTはどのくらい？

主任指導主事

各校に年間18時間入ってもらっているだけです。小学校は5・6年生、中学校は全学年に入っている状態です。小学校で18時間、中学校で年間9時間入っているだけで、それ以外の時間は担当教諭が英語の授業を行う形になっています。

教育長

学校訪問に行かせていただいて1年生の英語活動においてALTが担任の先生と2人で授業をしているのを見て、子供達がとても楽しく受けていました。大変素晴らしいことだと感じました。

これは学校によって違いますか？1年生・2年生にも月1回とか、年間に1回とか2回とか実施されていますか？

主任指導主事

学校の裁量で回せるようになっています。

委員

大規模校はなかなか。

教育長

大規模校でも1年生2年生あたりにALTを増やすとか、ALTを授業に入れられるような方策を。

委員

英語に親しむということは、小さければ小さいほど入りやすい。中学生になれば覚えなければいけないとか壁ができる。小さいときはALTと一緒に遊んでくれたりするので、触れ合いやすい。

市長

試験では良い点を取るけれど、喋ったりというのは全然できなかった。基礎は習わないといけないので、そのあたりを教育委員会で十分検討してほしい。

(3) 今後の学校運営等について

部長

昨今、全国的に少子化が進んでおり、紀の川市においても児童生徒の減少が進んでいる状況です。

現在、小学校は16校、中学校は6校と分校が1校のうち、小規模校（クラスが6～11）と呼ばれる小学校が11校、中学校で5校です。

【資料3に基づき複式学級による学校運営等、課題について説明】

市長

今日一日でどうしようという結論は出ないと思いますので、今後の課題として。

教育委員会で十分検討していくと同時に、長年続いている地元の小学校を閉鎖して統合していくという結論を出していくとすれば、今ある小学校の地元の卒業生などに十分に理解を求めて、また通学バスなどと色々と考えないといけない。

1年そこそこでは解決はできないと思いますが、ご意見ございませんか。

教育長

今年、3小学校で複式学級がありました。その授業を見ていると、1人の先生が2つの学年を指導するというのは、なかなか難しいというのを感じました。子供達も先生が1人なので他の学年を指導しているときは、自分達で作業をしなければならぬというのもあります。

今度、5年生と6年生で英語が教科になり、3年生と4年生が活動です。たとえば4年生と5年生が複式学級になると、片方は英語の活動、片方は教科となるため難しい。また30年度から道徳が教科化になると、道徳の授業をしても、1人の先生が2つの学年の授業をするというのは、教材も違ってくるし、これもまた難しいと危惧しています。

委員

2年・3年生も生活科と社会科で難しいです。

委員

個人の良さを大事にすること、自分の良さと同じように他の子の良さも認め合い、個人個人の良さを認め合うということを基本にしているのが生活科です。1・2年生にとって自分自身の良さを知るとか、友達の価値を認めると同時に自分の価値や良さを出していくということで、個人として大事にされる基盤を作れる教科です。

生活科を複式にするのであれば、力量のある教師を配置するなど配慮している教科だと思います。生活科は1・2年生だけのために作られているので、生活科を複式にするということは、算数や理科、社会などの教科を複式にすることよりも、教

師にとって難しい指導になってくるのではないかと思います。それぞれ難しさがあると思いますが、生活科は人格形成の基礎を作るうえで大事にしたいので、力をいれていただきたい。

委員

デメリットもあるのですが。

1・2年生、3・4年生、5・6年生の複式であれば教科も時間数もほぼ一緒なので、教える内容や目的もほぼ一緒です。たとえば、国語の本読み1・2年生の複式学級だと2年生がお手本になったりと高学年の真似をしてできるというメリットがあり、クラブ活動でも中3の子が指導的な立場になって低学年を指導する。教えることによって学ぶというメリットもあります。

市長

保護者はどうですか。複式でも学校を残してほしいという希望があるのか、大きな学校へ行かせた方がよいと思っているのか。そのあたり調査というか認識してもらわなければならない。

教育長

統合の話がまだ出ていないので、保護者から大きな学校へ行きたいという話は、あまりまだ出ていません。

市長

統合すると決めていないが、複式のままでよいのか、統合ということも視野に入れながら考えていくのであれば、保護者に聞く機会を持っていかなければならない。仕方ないから複式にしているということだが、それで納得しているのか、そうでないのか。

子供が減っているから複式にしているという理由だけではいけない。

教育監

入学式や卒業式に保護者に「規模はどうですか？」と敢えて聞いている。保護者はある程度の規模で勉強させたいという意見が多いです。

区長にも運動会などで、この規模でどうなるのかと言われることがあるので、地域の人達も子供が少なくなっていることに対しては危機感をもっているような感じはします。

市長

保育所の場合は、1人か2人でも保育所を置いてほしいと言うけれど、学校の場合はそうではないと私自身も思います。

部長

以前、中学校の統合の担当をしていた時に、保護者としては、多いところで競争力のある環境で学ばせたいという考えの方が多かったように思います。

地元としては、唯一の文化的な学校がなくなるという寂しさについての発言は、

かなりあったように記憶しています。

委員

これから保護者、地域の方々の声を聞きながら、どんな方法が一番いいのか検討していかなければならない時期かと感じています。

市長

先ほどから問題になっている複式や統合等々について、教育委員会で十分に相談をして、方針を出す前に保護者やPTAに相談していただいて答えを出していくということにしてもらいたい。

他に意見は？

委員

自分自身、ずっとクラス替えもないまま来たので、それはそれでいいと思うのですが、複式学級となると話は別になると思います。

ここからまだ減っていく可能性がある中で、そのあたりは、もうちょっと話を進めていかなければならないという気はします。県の人口が減っているくらいですから、紀の川市の人口が急に回復するということは、まずないと思いますので、そのあたりは近々にやっていかなくてもいけないという気はしています。

市長

紀の川市の人口回復については、他市の住民に「紀の川市に来てよ」ということで紀の川市が維持してできていくということでは、根本的な回復にはならない。

今日はこのあたりで。

○ 閉会